



● 今月のご紹介者

株式会社 ケミック 代表取締役社長 蓼沼 憲 氏

『八甲田山死の彷徨』

著 / 新田 次郎 出版社 / 新潮文庫



[概要]

明治35年、青森・八甲田山で起きた大規模遭難事件。陸軍によって隠蔽されていた、199名の死者が出た実際の悲劇を発掘、小説化した。

神田大尉が率いる青森5聯隊は雪中で進退を協議しているとき、大隊長が突然“前進”の命令を下し、指揮系統の混乱から、ついには199名の死者を出す。徳島大尉が率いる少数精鋭の弘前31聯隊は210余キロ、11日間にわたる全行程を完全に踏破する。2隊を対比して、組織とリーダーのあり方を問い、自然と人間の闘いを描いた名作。

Q1：この本を手にとられたきっかけについて

子供の頃、本書を原作にした映画とテレビドラマがありました。経営というものに悩み、書店でヒントになる本を探していたところ、たまたま本書を見つけ、懐かしく思い手に取りました。

Q2：この本をお薦めしたい理由について

日露戦争の直前、寒冷地における戦闘の予行演習として、厳寒の八甲田山横断の命を受けた2つの部隊。神田部隊は準備と経験を欠いたまま、210名という大編成で出発。徳島部隊は早い段階から計画を立て、少数精鋭の38名編成で出発しました。この2部隊はその後、記録的寒波による猛吹雪に見舞われ、明暗を分かつこととなります。

ここで比較されるのが、部隊を率いた各指揮官のリーダーとしての素質です。私はそこに、経営に生かすべき教えを感じ取りました。

常に変化する状況に対応しながら、あらゆる判断を即座に行わなければならない。企業のトップ

に立つ身として常に意識をしている事ではありませんが、いざ実行に移すとなると思い通りに行かないことも多く、自分自身の課題でもあると感じました。

Q3：どういった方にお薦めしたいですか

今後、リーダーになる方たちにぜひ読んでいただきたいです。消費者の関心を含め、経営者は変わりゆくマーケット全体を見て、今何を提供すべきか、社内事業として何に重きを置くかを考えなければなりません。そのことを改めて理解できる一冊です。



株式会社ケミック

本社：大阪府和泉市テクノステージ1-2-1

資本金：5,000万円

創業：昭和44年

従業員数：35人

事業内容：切削油剤の製造・販売